

自然との共生について

【調査の目的】

県では、人と自然が共生する社会（※1）づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、企業、NPO・ボランティア等の多様な主体によって生物多様性（※2）の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、平成25年3月に「福岡県生物多様性戦略」と「行動計画」、平成30年3月に「福岡県生物多様性戦略第2期行動計画」を策定しました。つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

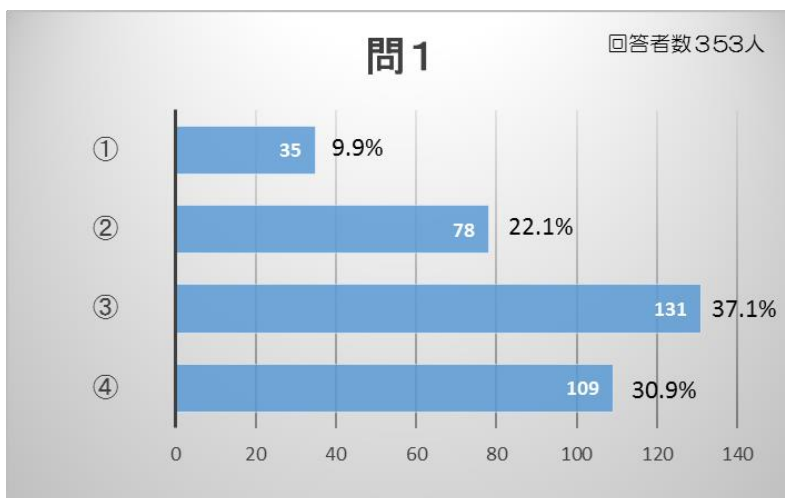
※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

（環境部自然環境課）

問1 「生物多様性」という言葉を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

- ① 内容をよく知っている。
- ② 内容をある程度知っている。
- ③ 言葉を聞いたことがある。
- ④ 全く知らない。



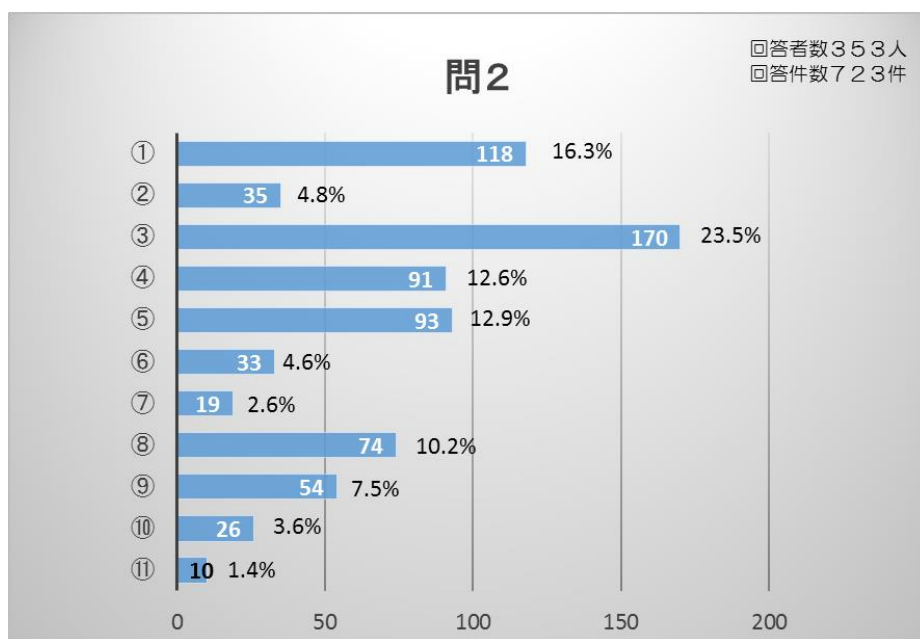
<参考>

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移
(H23は生物多様性戦略策定時の数値)

	合計		
		①	②
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%
平成30年	32.0%	9.9%	22.1%

問2 生物多様性を守るために、あなたはどのようなことを行っていますか。次の中からあてはまるものを2つ選んでください。

- ① 自分のまちを散策して、身近な自然を感じる。
- ② 身近な生き物の名前を調べる。
- ③ 地のもの・旬のものを食べる。
- ④ 野生の生きものにエサをやらない。
- ⑤ 環境にやさしい商品を選ぶ。
- ⑥ アサガオ等で緑のカーテンを作る。
- ⑦ 生きもの観察会や環境保全活動に参加する。
- ⑧ ペットを最後まで飼育する。
- ⑨ 花や実のなる木を植える。
- ⑩ 自然についてできることを話し合う。
- ⑪ その他（具体的な活動）

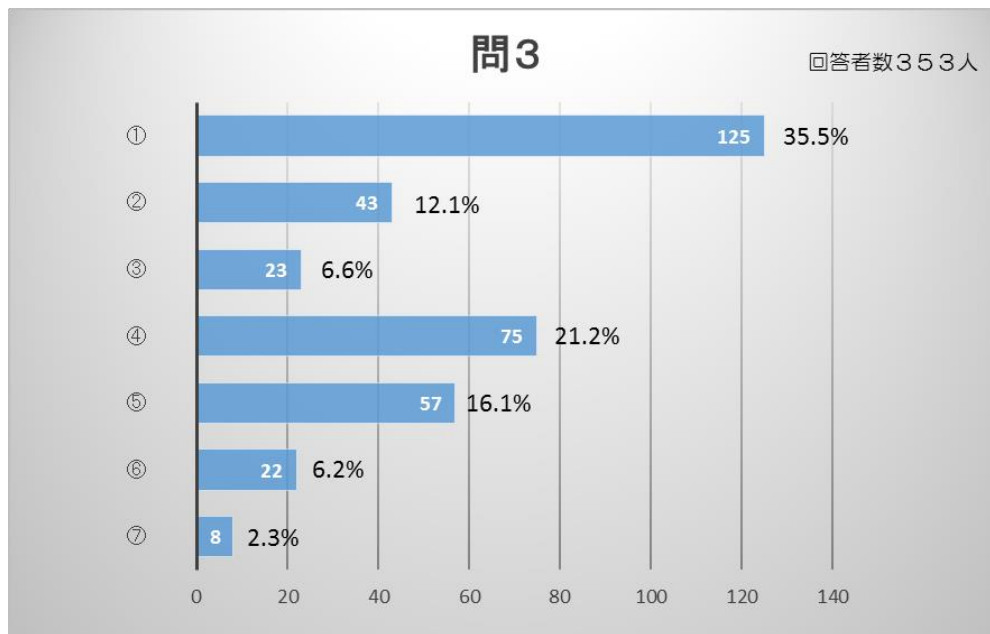


⑪その他（抜粋）

- ・セイタカアワダチソウ、ムラサキカタバミなどの要注意外来生物を駆除する
- ・環境学習の企画運営や参加
- ・生物多様性を意図とした、九州大学伊都キャンパスで植林や間伐などに参加
- ・特に何もしていない

問3 生物多様性の保全等の取組を推進するためには、まずは自然とふれあう機会を創出することが重要です。あなたは、どのようなフィールドの自然や生きものに関心がありますか。次の中から**1**つだけ選んでください。

- ① 山、森林、湿原、草原など
- ② 干潟、離島、海など
- ③ 河川、クリーク、ため池、水田など
- ④ 自然公園のように自然が保護されている場所
- ⑤ 観光ガイドブックに載るような風光明媚な景観のある場所
- ⑥ 人の手により整備された公園やキャンプ場、ビオトープなど
- ⑦ その他（具体的な場所）

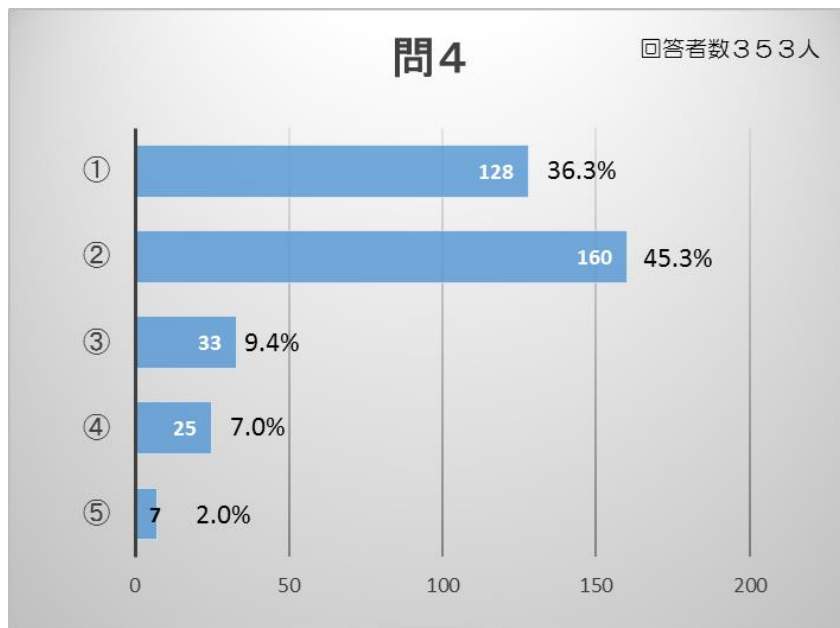


⑦ その他（抜粋）

- ・ふだん目に触れる場所
- ・身近なところにはささやかな自然があふれています。特別なところに行かなくても季節を感じることはできています。
- ・生活していることが、自然と触れ合うことになっているので、特に取り組んで推進することはない。
- ・身近な雑草

問4 県では、生物多様性への関心や認識を深めるため、県民の皆さんが普段の生活や休日のレジャー等で見つけた生きものについて、種名、写真、発見日時・場所を報告してもらい、県内に生息・生育する動植物の分布状況を把握するうえでのデータとして活用する「県民参加型の生きもの調査」の実施を重点プロジェクトとして掲げています。あなたが発見した生きもの情報を報告する方法として便利だと思うものを、次の中から1つだけ選んでください。

- ① 報告用のホームページに情報をアップロードして報告
- ② LINE、フェイスブック等のSNSを活用して報告
- ③ Eメールにより報告
- ④ 報告用紙を郵送する等、紙媒体により報告
- ⑤ その他（具体的な方法）

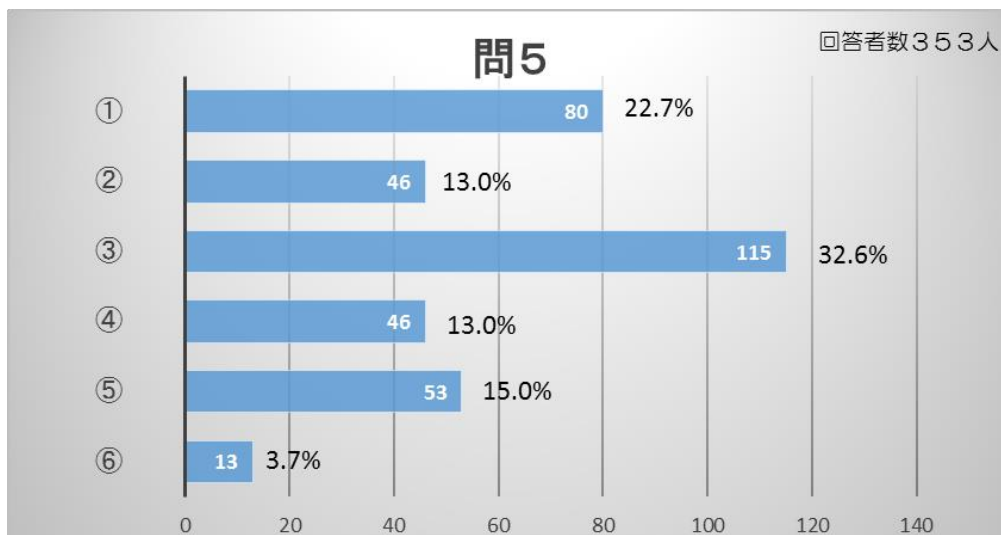


⑤その他（抜粋）

- ・地域の活動と絡めて行う調査、子どもの教育と結びつけたり高齢者の活動の一環として結びつけたり、町おこしビジネスとして結びつけたりなど。
- ・ラインやツイッターならハッシュタグを整備する。生き物の名前がわからなくても投稿できる仕組み。Ingress やポケモン GO のような、GPS ゲームとして作るとコレクトできて楽しいのでは
- ・インスタグラムやツイッターのハッシュタグの活用
- ・新聞
- ・アプリによる報告

問5 今後、生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援したほうがいいと思いますか。次の中から1つだけ選んで記入してください。

- ① 地域の活動に対して資金等を助成する
- ② 市町村やNPO等に対して取組への助言や生物多様性に関する研修会を実施する
- ③ 誰でも取り組めるような生物多様性保全活動ためのリーフレットを作成し、周知・配布する
- ④ 自然観察会等に、生物多様性に精通した人材を派遣する
- ⑤ 一般の人を対象とした生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する
- ⑥ その他（具体的に）



⑥その他（抜粋）

- ・大学などと連携して若い人以外も学びと実社会を総合的に体験できる環境を作る
- ・自然が多い地域（いわゆる田舎）に移住するような政策を立案する
- ・義務教育で生物多様性の保全について、地域で取り組めることを学習する（外部からNPOなどの講師を招いて体験学習を行う）
- ・小学校のカリキュラムに授業として組み込む
- ・自然観察会などがいつどこで開催されているかの情報を提供して欲しい
- ・研修発表の場を設ける（小学校などでの発表を含む）
- ・野外活動の一環として学ぶような教育のシステム作り、年々減る詳しい高齢者の語りべ的な存在を支援していく
- ・子供をターゲットにして、親を巻き込む戦法が良いのでは